

# 新聞さん「コロナによる世界経済への影響」を読んで

高原浩之(2020.04.23)

主旨は「コロナの後にどのような風景＝世界が展開されるのだろうか」ですが、「コロナを利用して沸き起こる(沸き起こす)強権的緊急事態法の恒常化—改憲の必要性を煽る」という認識からすると、まずは「緊急事態宣言」に対する態度が重要だと思います。



## (1)「緊急事態宣言」反対の大衆闘争

### ①「宣言」反対

4/7の7都府県「緊急事態宣言」に対して、4/9に首相官邸前緊急行動があった。

「異議あり!」、「憲法が定める基本的人権の重大な侵害にあたる恐れがある」、「改憲利用とんでもない!」。人民の態度は、利用反対ではなく(共産党はこのレベル)、当然、「宣言」反対ですが、大衆闘争の論理を立てるのに苦勞すると感じます。

ブルジョア国家に対するプロレタリア階級の原則的態度は、権力の強化と拡大に反対し、対置するのは人民の自主性の強化と拡大であり、その自主性は国家に対する要求になる。

「宣言」反対の大衆闘争には、新型コロナ・ウィルス感染症に対する安倍政権の方策の批判と人民が対抗的に要求する方策、これが同時、むしろ先行でないと苦しい。

とりわけ「緊急事態宣言」は、安倍政権の無為無策と無能(積年の「忖度」による官僚の劣化)に堪りかね、医療界と地方自治体が危機感を持ち(根本には人民の危機感)、突き上げた事情があるので(4/16 全国「宣言」は給付金の失政による転換をごまかす面もあるが)、なおさらである。

### ②人民の要求と安倍政権批判

①PCR検査を拡大して広く感染者を把握し、②症状に応じて隔離から入院までの広い医療体制を築く。③感染を止めるためには社会生活を止めるしかないが、それには生活補償・休業補償をする。これが人民の要求だと思う。この実行に「宣言」は必要ない。

安倍政権は①に逆行し検査を抑制した。それは、オリンピックのための感染隠蔽であるが、根本は官僚の、検査して感染と分かると病院に押しかけて医療崩壊するという大衆不信である。

加えて、指定感染症に指定して無症状も軽症も入院させ病院の余裕を失わせた。ここで、②隔離療養施設の拡充ではなく、それをサボタージュし、またも①に逆行、検査の抑制→感染隠蔽に向かった。これを「専門家会議」の一部の「御用学者」が「PCR検査無用論」や「クラスター潰し論」で補強した。

これは、初期は死亡を抑え込んで成功に見えたが、根本的には戦略的誤謬で、「ギャンブル」(『ニューヨーク・タイムズ』)。①検査と②医療の体制が構築されず、多数の無症状や軽症の感染者を市中に放置した。

そこから市中感染の拡大と爆発、それによる院内感染の拡大と医療崩壊が起こる。それが今、始まっている。

### ③人民の自主性

①②は今、医師会と自治体が政府を当てにせず着手している。今後、人民の工夫で拡大するだろう。③を、政府はアベノミクスのため逡巡の後、補償なしに国民の犠牲で乗り切ろうとしたが、公明党の恫喝で「一律一人10万円給付」を認めた。

人民の要求は1回限りではない給付の継続、最終目標はベーシック・インカムだろう(「一律給付」は確定申告で高所得者から取り戻す→所得税の累進性強化)。また、今後、③中国や欧米と同じ都市封鎖に追い込まれるだろうが、人民の要求は必ず生活補償・休業補償となる。

「崩壊」(医療だけでなく社会も)の中で、地域住民が自主的に協力する活動と組織が生まれていく。第2の「3.11」。大げさに言えば、「対抗社会」あるいは「陣地戦」。

## (2)「コロナ後の風景=世界」

### ①「コロナ風景」 アジアと欧米

アメリカは感染と死亡が、中国と比べて(中国のデータは信用できないが)、人口比だけでなく、絶対数も圧倒的に多い(保険も含めた国民的医療体制が存在しないのが大きい)。

もうひとつ、韓国・台湾(+シンガポール・香港→NIEs=「アジアの四小竜」)とイタリア・スペイン、さらにはフランス・イギリスなどの比較。中国発の第1波で、アジアは感染爆発と医療崩壊を抑え込んだが、ドイツを除くヨーロッパとアメリカはそれが起きている。

第二次産業=工業の中心は東アジアに移って、北米・西欧は空洞化している(マスクも医療用具も充足できない!)。グローバリズムと表裏一体の金融資本主義による帝国主義の腐朽性と寄生性、新自由主義による医療体制の削減、この結果が欧米の惨状である。

欧米発の第2波を、韓国・台湾は引き続き抑え込むだろうが、日本は感染爆発と医療崩壊が起きるだろう。

韓国は①検査と②隔離療養を拡大し③都市封鎖なしで乗り切るが、対照的に、日本は①に逆行し②をサボタージュ、③都市封鎖に追い込まれるだろう。韓国も台湾も最進のIT管理国家だが、人民の民主的対抗がある(これが中国にはない)。

ASEAN諸国は、今は感染も死亡も少ない。実際か、統計がないのか、今後は?

### ②「コロナ後」 新開さんの視点から考える 21世紀論

・「自国ファーストの高まり」「人民の連帯は」

・「米中の囲い込み(による姿を変えたグローバリズム)が進展する—農業やエネルギーを中心とする地元での自製=社会的連帯経済の展開」

#### 1. 恐慌または長期の不況 グローバリズムとブロック化が同時に進む

アメリカの世界覇権は終わる。グローバリズムは、資本主義の世界化 or 世界の資本主義化という土台の上に、アメリカ帝国主義の覇権という上部構造。

その上部構造がアメリカと中国(「一帯一路」)、二大帝国主義の覇権闘争にブロック化。

中国=「世界の工場」も終わる。産業資本→金融資本、あるいは「中心=工業と周辺=資源」→「中心=金融と周辺=工業」、これは資本主義とその世界システムの必然。北米・西欧・日本に続いて、中国が中心=金融に移行。

加えて米・西欧・日本は安全保障から「工場」を中国から移転。工業はより周辺に拡散(→搾取と環境破壊の拡大)。

## 2. 社会主義の「ルネサンス」 プロレタリア国際主義の基礎

中心の産業的工業的空洞化が進む。非正規雇用→失業で、搾取と収奪の強化と、格差の拡大。社会の崩壊と言える。

産業の再興と社会の再建、それは工業と農業、都市と農村の関係の再編成が中心になるが、これがプロレタリア階級と社会主義の課題になる。同時に人間(社会)と自然の関係の再編→環境保護。生産手段の国有化論(官僚制国家資本主義をもたらした)を超えた社会主義思想の「ルネサンス」。

これが、帝国主義の覇権闘争=ブロック化に反対するプロレタリア階級の国際的連帯(の再建)の基礎になる。

レーニン『帝国主義論』の7章=「資本主義の特殊の段階」「高度の社会=経済制度への過渡」と、8章=「寄生的な腐朽しつつある資本主義」と、10章=「死滅しつつある資本主義」の深意から、21世紀=「帝国主義と社会主義革命の時代」をイメージする。(おわり)